

布津笑楽校だより

第4号

令和5年6月27日
南島原市立布津小学校
文責：校長 横田 秀富

梅雨とともに夏の暑さが近づいているなか、がんばっています！

日本らしい気候の中、学級園の植物もぐんぐん成長しています。草木萌え出ずる季節ですね。雨の日が続いたり晴れの日が続いたりと気まぐれな天候に左右されながらも学校では、子どもたちの元気な声があちらこちらから聞こえてきます。「布津大好きな子!」「やる気いっぱいの子」「豊かに表現する子」「チャレンジする子」をめざし、日々の教育活動に努めているところです。さて、5月から6月にかけてたくさんの行事等がありましたので、一部ではありますが、お知らせいたします。6月18日には、数年ぶりにPTA主催の海岸清掃・すくい体験が行われました。子どもたちも貴重な体験ができたのではないのでしょうか。

布津笑楽校日記

5/26 プール清掃(4・5・6年)

水泳学習に先立って、プール清掃を行いました。長く使っていなかったプールとプールサイドは大変汚れていましたが、4・5・6年生の子どもたちと担当教職員にて磨きを掛けました。ビフォー・アフターを比べるととてもきれいになりました。

5/29 いも植え(3年)

深江町の4Hクラブの方がゲストティーチャーとして来校してくださり、3年生にいも植えを指導してくださいました。子どもたちは説明をよく聞き、楽しくいもを植えていました。秋の収穫が楽しみです。大きないもがたくさん収穫できることを祈ります。

6/6・13 春のわくわく読書タイム

読書活動の推進を図るため、本校では、朝のタイムで10分間読書タイムに取り組んでいます。学校職員が各学級にて、読み聞かせを実施しました。私も1年生の教室で「もっとおおきなたいほうを」という絵本の読みました。心温まる楽しいひとときでした。

7日に1・2・3年生、21日に4・5・6年生を対象に布津図書室の森司書さんが、読み聞かせをしてくださいました。本が大好きな子どもたちがたくさん増えるといいですね。

6/7ジオパーク学習(6年)

雲仙普賢岳災害記念館にあるジオパーク推進協議会から2名の方をお迎えし、6年生が普賢岳災害やジオパークのこと、実際の地層などについて学びを深めました。真剣に取り組んでいた6年生がすてきでした。

6/6 オーガニック給食

南島原市において有機農業で栽培された野菜を使ったポークカレーが給食で提供されました。地元の食材が使われているということで子どもたちは、味わいながら食べていました。私も個人的にカレーが大好きなので、美味しくいただきました。(感謝)

6/16 水泳学習開始

透き通ったプールが子どもたちを迎えてくれました。プール清掃できれいに磨き上げたあと何日もかけて水を張り、プールの管理人さんが毎日、ごみを取り、きれいに保ってくださいています。そのおかげと天候にも恵まれ、午前中には1年生、午後からは5・6年生が水泳学習に取り組むことができました。水の中で命を守る方法を学ぶためにも水泳は、大切な学習の1つです。

6/12 保健集会(全校)

保健委員会(5・6年生)が「けがの防止」について、寸劇を交え、啓発を行いました。学校生活の中では、けがをすることがあります。例えば、転倒による擦り傷は多いです。階段を急いで駆け降り、数段跳んで足を痛めたり、廊下や運動場でよそ見していて、人とぶつかったりするなど、考えれば防げるけがもあります。自分でよく考えて行動し、けがを予防できるように繰り返し指導していきます。

6/20七夕飾りづくり(1・2年)

地区老人会の方々や子どもたちのおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に七夕飾りを作りました。いろんなことを教えてもらい、子どもたちもとっても楽しそうに取り組んでいました。

6/12 プログラミング(5年)

現行の学習指導要領においては、プログラミング教育の実施について示されています。総合的な学習の時間に、5年生が1人1台端末を活用し、バーチャルのAIロボット:ペッパー君を動かす簡単なプログラミングに挑戦していました。子どもたちは真剣に画面に向かって学習を進めていました。通信技術も急速に進展している現代において、コンピュータ等の有効な活用を学ぶことも大切な学習の一つになっています。正しく使うための情報モラルの習得も同時に必要です…。

家庭・地域に配布したお便りには、記載しています。ご了承ください。

6/19 いのちを見つめる校長講話

19日の朝、全校朝会を行いました。長崎っ子の心を見つめる強調月間に伴い、本校では、18日~24日を教育週間と設定をして教育活動を行いました。その一環として、「いのち」について校長講話を行いました。私が15年ほど前に出会った「いのちのまつり(弓削田健介 作詞作曲)」という歌があります。美しい歌詞と旋律が一つになった大変すばらしい楽曲です。歌のサビ部分で「すべての命が弥栄えますように」というフレーズが出てきます。

はじめに「弥栄(いやさか)」という言葉とその意味について説明をしました。「どんどんよくなっていきますように、幸せでありますように。難しい言葉でいうと、いっそう発展していきますように、繁栄していきますようにということです。花にと考えると、種をまいたら、芽を出して、どんどん葉っぱが増えて成長し、花を咲かせて、実をならせて、そして種ができていくような様子のことをいいます。」

次に筑波大学名誉教授だった科学者の村上和雄さんの言葉を交え、話を進めました。「私たちには、一人にたった一つのかげがえのない大切な、大切な『いのち』があります。先祖から受け継がれてきた大切な命です。村上和雄さんという方は『一つの命が生まれる確率は、一億円の宝くじが100万回連続して当たることと同じくらいだ。』とおっしゃっています。そんな奇跡で生まれた命を私たちはもらって、今、私たちは生きています。私たちは、生きているから遊ぶことができます。友達と話すことができます。生きているからご飯を食べることができます。生きているから勉強ができます。私たち人間だけではありません。小さい虫、例えば、身近にいるダンゴムシもアリもちょうちも鳥も魚にも草花にもみんな命があるのです。物にもすべて命があります。物も作った人の苦勞と心がこもっています。命は、一つしかありません。死んでしまったら生き返ることはありません。たった一つしかない自分の命、他人の命を大切に大切にしてください。そのためにできることがあります。1つめは、日頃から周りの人にやさしくするということです。2つめは、自分が、今、ここに生きています。という心を込めて「あいさつ」や「へんじ」を元気にしっかりとすることです。たくさんの奇跡によって命をもってここにいる私たちです。一人残らず 笑顔いっぱい 楽しさいっぱい に生活できるようにしていきましょう。布津小学校のすべてのみなさんが弥栄えますように願って、話を終わります。」

「いのち」について、ご家庭での話題にさせていただければ幸いに存じます。